

ヒトと動物の豊かな共生社会をめざして



ヒトと動物の関係学会 理事 ⑤

- 公益財団法人 日本ヘルスケア協会
- 一般社団法人 日本ヒューマン・ドッグウォーキング協会
- 動物との共生を考える連絡会
- NPO 法人 自然と動物を考える市民会議
- 認定 NPO 法人 野生動物保全論研究会
- 比較心身症研究会



「第6回 日本ワンヘルスサイエンス学会 年次学術集会 市民公開シンポジウム」南大沢キャンパスで開催。

- 一般社団法人 日本ペット栄養学会
- ペット法学会
- 日本ワンヘルスサイエンス学会

- 一般社団法人 ペットフード協会



- 一般社団法人 優良家庭犬普及協会 理事
- ペット研究会「互」
- 一般社団法人 アニマル・リテラシー総研

“One Health, One World” 地球規模で環境保全に取り組む

WWF ジャパン

(公益財団法人 世界自然保護基金ジャパン) 顧問

1961 (昭和36) 年にスイスで設立され、100カ国以上で活動している環境保全団体。人と自然が調和して生きられる未来をめざし、希少な野生動物の保全や、地球温暖化防止、環境汚染防止、自然環境保護などにも取り組んでいます。本学園理事長は評議員を経て顧問として就任しています。

レイチェル・カーソン日本協会 関東フォーラム

環境問題の古典「沈黙の春」で地球の悲鳴を伝えた海洋生物学者・作家レイチェル・カーソンの生涯や思想を、環境教育・読書会・勉強会・セミナー・自然観察/体験などの諸活動を通じて、かけがえない自然や環境を保全することを広く社会に発信しています。

ヤマザキ学園は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています



ヤマザキ学園では、2015 (平成27) 年の国連サミットで採択された持続可能な開発目標である「SDGs」の達成に向けて、さまざまな取り組みを行っています。

動物と社会福祉

- 一般社団法人 日本身体障害者補助犬学会 元理事 ⑥
- 社会福祉法人 日本介助犬協会 元理事
- 公益財団法人 アイメイト協会
- 公益財団法人 日本盲導犬協会
- 公益財団法人 日本聴導犬協会
- 公益財団法人 日本ヒアリングドッグ協会
- 社会福祉法人のゆり会
- 一般社団法人 日本障がい者乗馬協会 オフィシャルパートナー



公益社団法人 経済同友会

公益社団法人 日米医学医療交流財団

公益社団法人 山階鳥類研究所

3 持続可能な消費と生産
4 質の高い教育をみんなに
5 ジェンダー平等を推進しよう
8 働きがいも経済成長も
11 住み続けられるまちづくりを
16 平和と公正をすべての人に

\\ 詳細はWEBで /

動物たちの幸せを守る



公益社団法人 日本動物福祉協会 ⑦ 新東京支部代表常任委員

動物を虐待から守り、生命を守る社会を築いていくためにさまざまな活動を続けています。本学園は2006 (平成18) 年1月より「新東京支部」を拝命し、ペットハッピーホームプログラムという保護したイヌやネコに不妊・去勢手術を行い、新しい飼い主を探す活動をキャンパス内で実施しています。

公益財団法人 日本動物愛護協会 理事 ⑧

緊急災害時動物救援本部

現 (公財) 日本動物愛護協会、(公社) 日本愛玩動物協会、現 (公社) 日本動物福祉協会、現 (公社) 日本獣医師会等で構成される「緊急災害時動物救援本部」。東日本大震災発生時には、現 (公財) 日本動物愛護協会理事を務める山崎薫理事長と、同協会の評議員を務めていたヤマザキ動物看護大学 田保彦名誉教授が現地を訪問し、シェルターワークや保護された犬や猫たちの様子を視察しました。また、福島原発事故被災動物救援のための特別編成チーム「福島タスクフォース」には、本学の山川伊津子教授が隊員として参加しました。



ヒトと動物の関係学会 ⑤

Human Animal Relations (HARs) ヒトと動物のより良い関係を探究する



本学園理事長が理事を務めるほか、ヤマザキ動物看護大学専任教員の新島典子教授が評議員を務めています。本学園理事長は「2016年度ヒトと動物の関係学会秋季シンポジウム」において、「動物愛護法の視点から動物とヒトとの共生を考える」をテーマに講演しました。

1995 (平成7) 年発足。ヒトと動物の共生における課題解決、動物の特性や人間自身についての探究をめざし、学術大会および研究会、公開シンポジウムなどを開催している学会です。2003 (平成15) 年には IAHAIO (ヒトと動物の関係に関する国際組織) のナショナルメンバーに推薦され、日本を代表する学会として活動しています。

一般社団法人 日本身体障害者補助犬学会 ⑥

世界初の補助犬に関する学術団体



2009 (平成21) 年、南大沢キャンパスにて「第3回日本身体障害者補助犬学会 学術大会」と同日開催した「第4回ヤマザキ動物愛護シンポジウム」では、介助犬のデモンストレーションを実施。

2005 (平成17) 年設立。補助犬の学術的研究によって、身体障害者の自立と社会参加を推進する補助犬の普及発展を願う学識経験者が集まり、世界初の学術団体として誕生しました。学会誌発行の他、補助犬の啓発事業として補助犬デモンストレーションなども実施し、本学園も協同で行事を開催するなど、現在も協力関係は続いています。

公益社団法人 日本動物福祉協会 ⑦

新東京支部としてキャンパス内で ペットハッピーホームプログラム活動中



学内で実施された譲渡会では学生ボランティアが活躍し、動物たちは新しい飼い主さんと出会うことができました。

1956 (昭和31) 年設立。「日本の動物福祉向上」を目標とし、不幸な動物を助ける活動と、不幸な動物をつくらない (増やさない) ための活動を実施。2006 (平成18) 年、本学園は新東京支部を拝命し、捨てられたり、迷子になったりしたイヌやネコ等に対して新しい飼い主を探す活動「ペットハッピーホームプログラム」を続けています。

公益財団法人 日本動物愛護協会 ⑧

人と動物の調和ある共生社会の 実現を目指して



コヨリでできた犬をモチーフとして、斎藤弘吉氏が発案、原型をデザインしたロゴマークは人と動物を結ぶ絆をイメージしています。1975 (昭和50) 年に公式ロゴマークと規定し、Knottie (ノットィ) と名付けられました。

1948 (昭和23) 年設立。行き場を失った動物たちの新しい家族を探す譲渡会の開催といった【動物の命を守る活動】、自治体、学校、企業、各団体向けに「命の大切さについて」といったテーマで講演を行う【命の大切さを知ってもらう活動】、各種動物愛護イベントの主催や後援を行う【社会への提言活動】を続けています。